

普及情報

分類名〔野菜〕

情 2	果実硬度に優れた四季成り性イチゴ新品種「夏のしずく」
-----	----------------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

## 要約

農研機構東北農業研究センターを中心として、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県が共同で系統選抜と適応性評価を行い、夏秋どり作型に好適な四季成り性品種「夏のしずく」を育成した。平均果実硬度が既存品種よりも高いため、夏期高温期でも日持ち性に優れた果実が生産できる。

〔普及対象：夏秋どり作型イチゴ生産経営体（栽培面積5ha）  
普及想定地域：県内全域（夏期冷涼な高冷地等が望ましい）〕

## 1 取り上げた理由

四季成り性品種を用いた夏秋どり作型は、6～11月が国産イチゴの端境期となるため、収益性が高く、宮城県内でも高冷地を中心に行われている。夏秋期のイチゴは、市場での需要も高いが品種開発が遅れており、糖度が高く、日持ち性に優れた高品質な品種が少ない。農研機構東北農業研究センターを中心として、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県が共同で系統選抜と適応性評価を行い、夏秋どり作型に好適な四季成り性品種を育成したので普及情報とする。

## 2 普及情報

- (1) 夏秋どり作型での「夏のしずく」の商品果収量は、株当たり726.9gと既存品種と同等だが、夏期高温期であっても不受精果が出にくく、果数当たり商品果率に優れ、安定した収穫量が期待できる（表1）。
- (2) 平均果実硬度が80.7gfと既存品種よりも高いため、夏期高温期でも日持ち性に優れる。また、平均糖度が10.6%と四季成り性品種としては高糖度で食味が良く、果皮は光沢がある赤色で外観品質も優れる（表2）。
- (3) 既存の四季成り性品種の収量は、6～7月の収穫前期に集中する傾向があるが、「夏のしずく」は、9～10月の収穫後期の収量構成割合が比較的高く、出荷量の平準化の観点からも既存品種との差別化が可能である（図1、図2）。

表1 「夏のしずく」の収量特性

系統・品種名	全果総収量		商品果総収量 <sup>a)</sup>		商品果率		商品果平均1果重(g/果)	階級別果数構成割合 <sup>b)</sup>		
	果数(個/株)	果重(g/株)	果数(個/株)	果重(g/株)	果数(%)	果重(%)		2L～3L(%)	L(%)	MS(%)
夏のしずく	140.6	885.7	90.0	726.9	64.0	82.1	8.1	8.1	10.0	81.8
サマーキャンディ	121.3	843.4	67.9	668.5	55.9	79.3	9.9	12.0	12.5	75.5

a) 商品果：5g以上の正常果と7g以上の乱形果

b) 全正常果数に占める2L～3L：1果重15g以上，L：1果重10～15g，MS：1果重5～10gの割合

表2 「夏のしずく」の果実特性

系統・品種名	糖度(Brix%)	酸度(%)	硬度(gf)	食味	果形	果実揃い	果皮色	光沢	先青・先白	瘦果深度
夏のしずく	10.6	1.21	80.7	やや良	円錐～長円錐	やや優	赤	優	無	中
サマーキャンディ	10.1	1.09	63.8	中	円錐	やや劣	赤	やや優	無	中

\* 糖度、酸度、硬度は2021年6～9月に各5果調査の平均値。糖度は、アタゴ社製デジタル糖度計で測定。酸度は、クエン酸換算値の滴定酸度。

硬度は、アイコーエンジニアリング社製デジタル式加重測定器2mmΦ円柱。

### 3 利活用の留意点

- (1) この普及情報は、パイプハウスでの夏秋どり作型（定植：令和3年3月1日 無加温パイプハウス，栽培様式：高設養液栽培（巨根型栽培槽 培地：ココブロック），肥培管理：大塚 A 処方で EC 0.4～0.6dS/m, 300～500ml/株/日施用，栽植密度：ベッド幅 30cm, 通路幅 75cm, 株間 25cm, 2条千鳥植え（a 当り 762 株），摘花房：定植から令和3年4月28日まで）で得られた成果である。
- (2) 「夏のしずく」（旧系統名：盛岡 37 号）は，農研機構東北農業研究センターが平成 23 年に多収の四季成り性品種「みやざきなつはるか」に，果実硬度の高い四季成り性育成系統 06sAB-4e（「なつあかり」×盛岡 30 号）を交配した実生集団から選抜した品種である。宮城県は，青森県，岩手県，秋田県，山形県と共同で平成 25 年から平成 30 年まで系統選抜と適応性評価試験に参加した。
- (3) 「夏のしずく」の種苗の入手先については，農研機構の HP「農研機構育成品種の種苗入手先リスト」から確認できる。なお，最新の情報は，下記 URL を参照すること。  
([https://www.naro.go.jp/collab/breed/seeds\\_list/index.html](https://www.naro.go.jp/collab/breed/seeds_list/index.html))
- (4) 「夏のしずく」の自家増殖許諾については，農研機構の HP「農研機構育成の登録品種の自家用の栽培向け増殖に係る許諾手続きについて（農業者向け）」から確認できる。なお，最新の情報は，下記 URL を参照すること。  
(<https://www.naro.go.jp/collab/breed/permission/index.html>)
- (5) 「夏のしずく」は，農研機構が令和 2 年 11 月 5 日に品種登録出願を行い，現在出願公表中である。「夏のしずく」は，農研機構東北農業研究センター，青森県，岩手県，秋田県，宮城県，山形県の共同研究により育成された品種であるが，利用許諾先・栽培地域の限定はない。
- (6) 「夏のしずく」は，夏期高温期であってもかなり強い草勢を維持し，立性の草姿となる。既存品種よりも分けつ数がやや多いため，心止まりは少ないが芽数の整理に留意する（表 3）。

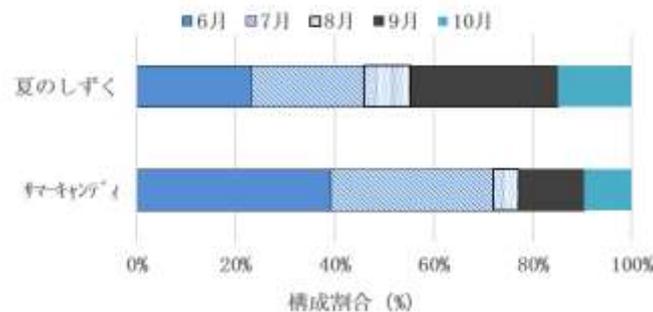


図1 「夏のしずく」の月別商品果収量構成割合



図2 収穫後期の「夏のしずく」の果実（左），植物体（右）（令和3年9月29日撮影）

宮城県「普及に移す技術」第97号（令和3年度）

表3 「夏のしずく」の収穫期の形態的特性

調査区	草高 (cm)	第3葉			草勢	草姿	開花始期		ランナー 本数 (本/株)	分けつ数 (本/株)
		葉柄長 (cm)	葉身長 (cm)	葉幅 (cm)			頂花房	第1次腋花房		
夏のしずく	39.5	25.3	9.6	7.4	強	立性	3月15日	5月3日	8.4	6.3
サマーキャンディ	33.7	21.2	10.9	8.4	やや強	やや立性	3月22日	4月24日	9.9	4.7

\*調査日：2021年7月13日

b)ランナー数：定植から6月27日までの累計ランナー発生本数

a)開花始期：各試験区の約3割の株で開花した日

c)分けつ数：定植から5月24日までの累計分けつ数（主茎の弱小脇芽）

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所 野菜部 電話 022-383-8135）

#### 4 背景となった主要な試験研究の概要

##### (1) 試験研究課題名及び研究期間

本県に適した特徴ある園芸作物のオリジナル品種育成（平成26-令和元年度）

みやぎオリジナル品種育成(令和元-令和3年度)

##### (2) 参考データ

なし

##### (3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

なし

ロ その他

本城正憲ら（2021）多収性の夏秋どり栽培向け四季成り性イチゴ品種「夏のしずく」、普及成果情報

##### (4) 共同研究機関

農研機構東北農業研究センター，青森県産業技術センター野菜研究所，岩手県農業研究センター，秋田県農業試験場，山形県農業総合研究センター園芸農業研究所